

～単収 200kg/10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて～

- 開花期頃から晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、青立ちの要因となる落花・落莢を予防するため、排水対策を徹底した上で早めに畝間かん水を行いましょう。
- カメムシ類が多発すると青立ちになる傾向があります。カメムシ類が多くみられる場合は、1回目の基本防除にもカメムシ類に効果のある剤を使用するとともに、発生状況に応じて随時防除を行いましょう。

1 畝間かん水

～開花期以降のかん水で、落花・落莢を予防～

- ・かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水しましょう。
- ・排水をスムーズにするため、培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結しましょう。
- ・かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、地域で計画的な用水の利用に努めましょう。



畝間かん水の様子

2 病害虫防除

～病害虫の発生状況に応じた防除薬剤を散布～

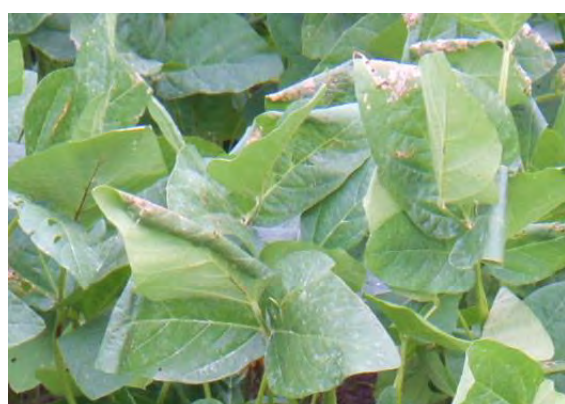
- ・紫斑病、カメムシ類等の病害虫を対象とした2回の基本防除を徹底しましょう。
- ・ウコンノメイガの常発地では、幼虫による葉巻の発生を確認したら、速やかに防除しましょう。
- ・農薬の使用基準を必ず守るとともに、周辺への飛散防止に努めましょう。

【基本防除】

防除時期の目安	対象病害虫	剤型	薬剤名	10a当り散布量	使用時期 (収穫前日数)
【1回目】 8月上旬～中旬 (莢が伸びきった頃)	紫斑病	粉剤	Zボルドー粉剤DL	3kg	—
		液剤	プランダム乳剤 25	4,000倍 150～300ℓ	収穫7日前まで
	※カメムシが多い場合 紫斑病 カメムシ類	粉剤	トライトレボン粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで
		液剤	プランダム乳剤 25 + カスケード乳剤	4,000倍 150～300ℓ	収穫7日前まで
【2回目】 8月中旬～下旬 (1回目の10～14日後)	紫斑病 カメムシ類	粉剤	Zボルドートレボン粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで
		液剤	アミスタートレボンSE	1,000倍 150～300ℓ	収穫14日前まで

【随時防除】

防除時期の目安	対象病害虫	剤型	薬剤名	10a当り散布量	使用時期 (収穫前日数)
7月下旬～8月上旬 (発生初期)	葉焼病	液剤	Zボルドー	500倍 150～300ℓ	—
7月下旬～8月上旬 (葉が巻き始めたら)	ウコンノメイガ (ハマキムシ)	粉剤	ダントツH粉剤DL	4kg	収穫7日前まで
		液剤	プレバソフフロアブル5	4,000倍 150～300ℓ	収穫7日前まで
8月中旬～9月上旬 (カメムシが多い場合)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	粉剤	ダントツH粉剤DL	4kg	収穫7日前まで
		液剤	ダントツフロアブル	2,500倍 150～300ℓ	収穫7日前まで

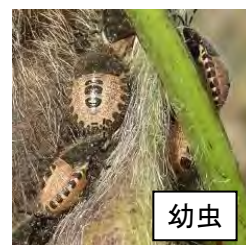


ウコンノメイガによる葉巻き
(1株に6個以上の葉巻きがあれば要防除)

カメムシ類の加害が著しいと莢数が少なくなり、大豆が青立ちする場合があります。
8月下旬～9月上旬に、カメムシ類が多い場合は、速やかに防除を行いましょう。



成虫



幼虫

イチモンジカメムシ



カメムシ加害による青立ち